

キーワードを付置する方法を用いたヒエ調理加工品の改善方向の解明

自由記述回答からのテキストマイニングデータの目的性をもったキーワード抽出と目的方向別の付置を行うことで、分析意向と関連づけた定性情報把握が可能となる手法をヒエの洋風レトルト製品の改善に適用し、脂っこい味付け等の改良が示唆された。

1. テーマをヒエのレトルト調理加工試作品のうち、購入しない回答が最も多かった洋風レトルト製品の改善方向の把握と決め、図1の手順で分析を行う。
2. 購入意向別理由キーワードの位置から、その内容は以下のように読むことができる(図2)。
 - (1) 「購入したいと思う」のは、「美味しい」、「食べやすい」、「便利」であるからと伺われる。
 - (2) 「脂っこく」、「馴染まず」、「飽きる」ことから購入を躊躇していると伺われる。
 - (3) 「購入したいと思わない」理由で最も多いのは「口」に「合」わないことであることだが、具体的には、その次の位置にある「バター」の風味が「諄(くど)い」ため、また「和風」がよいため購入したいと思わないと見ることができる。
3. 以上により洋風レトルトの製品改善方向はバターと脂っこい味付けの改良を検討することが示唆される。

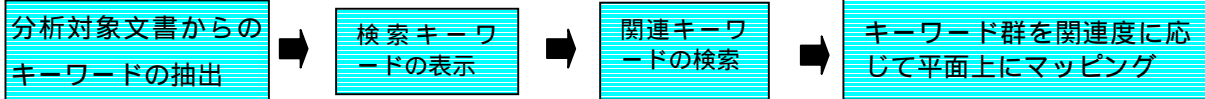


図1 キーワードのマッピングまでの手順

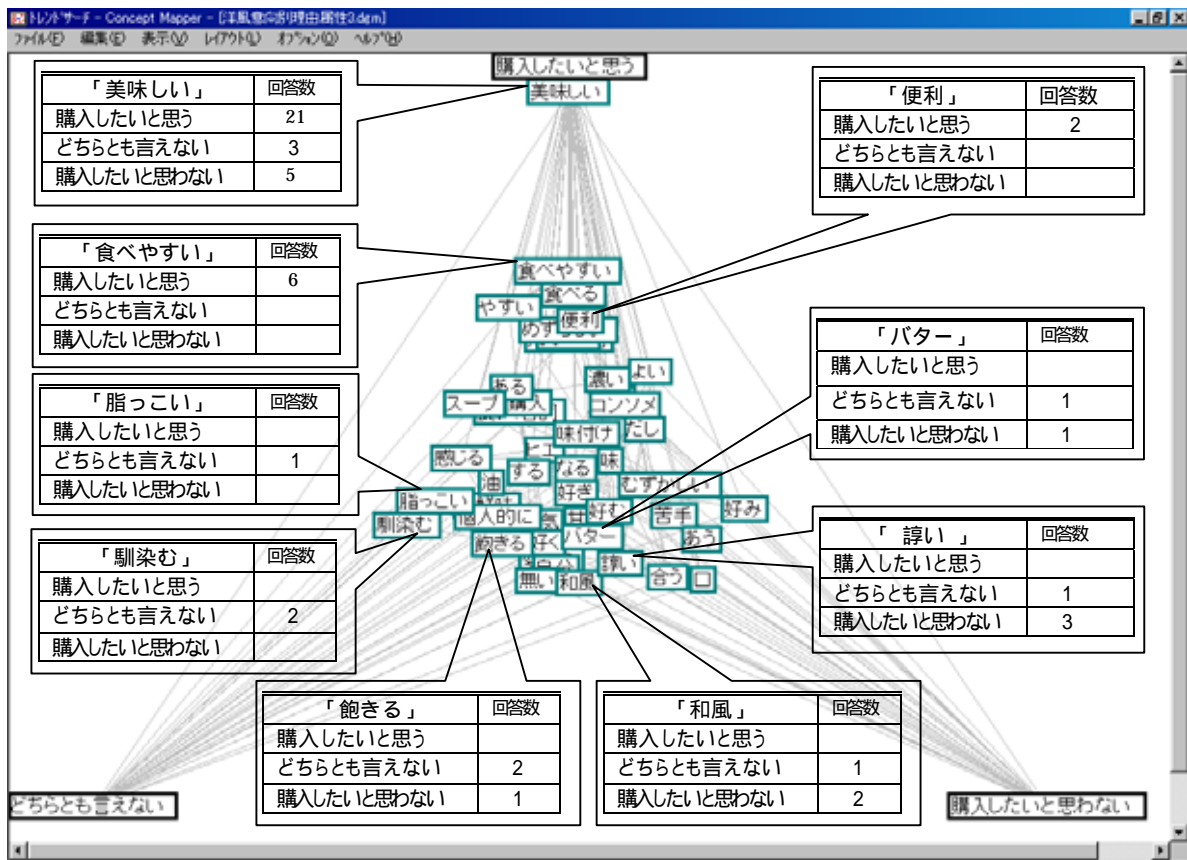


図2 洋風調味ヒエレトルト購入意向別理由